

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel : 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

最近は新聞やテレビなどで河川や水辺の再生に関わるニュースが多く登場するようになりました。日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）の活動も二年目に突入し、今年は国内外で水辺に関わるたくさんの方々との情報・意見の交換ができる様、役立つ情報を多く発信しながら、私達の活動にご賛同頂け

る方々を増やしていければと思います。引き続き、河川再生に関する情報と人の循環を目指した活動を実施して参りますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。本ニュースレターでは、ARRN / JRRN の最新の活動内容及び河川環境に関連する情報や取組みなどをご紹介致します。

活動報告(1)

ミニワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」開催報告

2008年1月21日(月)、JRRN主催で河川再生に関わるミニワークショップ「中国の河川再生と河川環境保全」が開催され、中国の水資源や水環境の現状を踏まえた河川再生の最新の話をご提供頂くと共に、参加者との活発な意見交換が行われました。

講師：李 建華 同済大学教授（中国・上海）
長江水環境教育部重点実験室副主任

上海市科学委員会崇明水環境実験室主任

日時：平成20年1月21日(月) 15:00～17:00

会場：(財)リバーフロント整備センター



講師 李 建華 教授

李教授は、河川や湖沼の水環境をご専門とし、かつて土木研究所等で研究員として7年間お勤めになるなど、日本の水環境の事情、技術、法制度にも精通され、現在は上海を中心に水環境改善の研究やプロジェクトでご活躍されています。



講演の様子

前半の講演では、中国全土の水環境とその保全、また河川再生の取り組みに関する現状について、様々な事例や国家計画の話題を交えご説明頂くとともに、李教授が拠点とされている上海における水資源問題や水環境改善事業に関してご紹介頂きました。

また後半では、講演内容や中国の水環境全般に関する質疑応答と意見交換が行われ、今後の中国の河川環境政策や日本への技術面での期待などについても意見が交わされました。

JRRN として今後も李教授と中国の河川再生に関する情報交換を行いながら、国内外の河川再生の生きた情報を蓄積する所存です。

また、講演で話題に上がった河川再生事例などは、今後事務局として整理しながらホームページ上に公開していきます。

URL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/434.html>

活動報告(2)

ARRN 事務局としての交流・PR 活動報告

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)設立後の2年間は JRRN がその事務局を担い、ARRN の PR 活動やアジアの河川や水環境に関する組織との技術・人的交流も事務局の重要な役目となっています。先月に行った活動として、海外の水環境に関する組織との人的交流を2件報告致します。

PEMSEA (国連東アジア海域環境管理局) 事務局との意見交換

2008年1月9日(水)に ARRN/JRRN 事務局と PEMSEA(国連東アジア海域環境管理局)事務局の意見交換を行いました。PEMSEA は、世界最大の環境基金 G E F のプロジェクトを国連開発計画 (UNDP) の管理のもとに実行する国際機関で、東アジア各地でのプロジェクト実施に対する



意見交換後の記念撮影

技術支援や知識の普及などを行っています。沿岸域管理には内陸側の流域管理も不可欠であり、河川・流域再生を目的に活動する ARRN/JRRN と

共有できる情報もあることから、今後の協働の可能性等について意見を交換しました。

NARBO (アジア河川流域管理機関ネットワーク) 事務局との意見交換

2008年1月9日(水) ARRN/JRRN 事務局と NARBO (アジア河川流域管理機関ネットワーク) 事務局が意見交換を行いました。NARBO は統合水資源管理(IWRM)の推進を主な目的として2004年に設立された国際ネットワークです。

ARRN/JRRN が扱う河川再生の取り組みは NARBO が進める統合水資源管理の一環とも言え、今後 ARRN/JRRN と協働できる事柄も多いことから、継続的に意見交換を行いながら、水環境改善やネットワーク運営に関わる有意義な情報と経験の共有を図る予定です。



意見交換会の様子

寄稿記事

東京の舟運イベント参加報告

東京都中央区日本橋は、江戸時代には日本の経済と文化発祥の中心地であり、創業 400 年を越える老舗や、多くの重要文化財や歴史建造物、日本銀行を始めとする金融機関が集積した稀少な都市です。

2003 年には江戸開府・日本橋架橋 400 周年を迎え、2004 年には、景観法が施行し全国のまちづくりのあり方が議論され、2005 年末には、小泉首相が「日本橋に青空を」という発言を行ったことから、昭和 39 年の東京オリンピック時に日本橋川上に建設された首都高速道路の移設が学識者などで構成される諮問委員会によって検討され提言書がまとめられました。

高速道路を撤去し川を復元した韓国の清流川(チヨンゲチョン)再生への活動にもみられるように、社会資本整備は機能一点張りから、心の豊かさや地球環境問題低減への取組みが必要とされるようになってきました。

そのような中で中央区の地域団体は様々な街おこしの活動を展開しています。

中でも興味深いのが、「舟運イベント」です。いろいろな地域団体が地域の活性化のための舟運イベントを実施していますが、以前「江戸東京の川再発見イベント」に参加をしたので報告します。

日本橋川にある常盤橋防災船着場から出発をして、日本橋川を上流に上り、神田川 隅田川 小名木川

隅田川 日本橋川のコースで川から橋や街を見学しました。



乗船の様子（日本橋川）

寄稿者：JRRN 会員・今西由美（国土文化研究所）



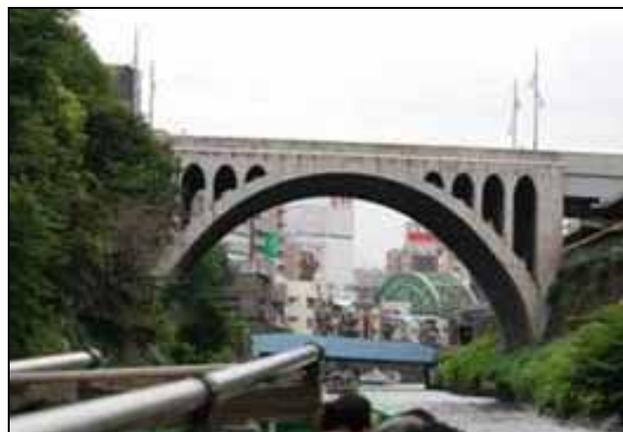
江戸時代の石垣（日本橋川）



川から見える段ボールの家



高速道路が川を覆う（日本橋川）



聖橋（神田川）

放物線を描くアーチ橋が大変美しい。聖橋の中で鉄

道と鉄道が交差し橋と一体化した風景が見られる絶景のスポット。



交通博物館（神田川）

2007年8月交通博物館の对外業務終了



日本橋（日本橋川）

1603年架橋。1999年に重要文化財に指定。現在の日本橋は第19代目。高速道路で完全に覆われている。



清洲橋（隅田川）

2007年6月に重要文化財に指定



常盤橋（日本橋川）

日常生活で、船に乗ることがないため、川や橋や街の魅力を再発見できた舟運イベントでした。

東京都の川のイベント情報は、東京都産業労働局が作成している「水辺活用ハンドブック」に掲載がありますのでご興味のある方はご参照ください。

URL：

http://www.kanko.metro.tokyo.jp/public/gyosei_news_13.html



パナマ運河閘門形式の扇橋閘門（小名木川）

見る見るうちに水位があがり水面の高さを調節して舟を通す。

会議・イベント等 (2008 年 2 月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

(その他の河川再生に関する主なイベント)

第 2 回 日本の“いい川”シンポジウム～多自然川づくりの手法～

日時：平成 20 年 2 月 9 日（土）12:30～19:00

会場：発明会館ホール（東京都港区虎ノ門）

主催：日本の“いい川”シンポジウム実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/402.html>

第 117 回河川文化を語る会「小さなシジミが教えてくれた自然保護活動の大きな問題点」

日時：平成 20 年 2 月 19 日（火）18:00～20:00

会場：厚生会館（全国土木建築健保）

主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/383.html>

平成 19 年度（第 55 回）河川講習会

日時：平成 20 年 2 月 14 日（木）～15 日（金）

会場：津田ホール

主催：社団法人日本河川協会

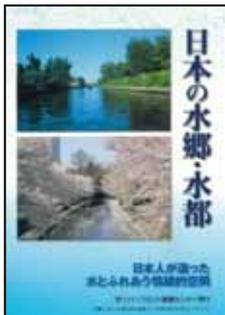
<http://www.a-rr.net/jp/event/04/425.html>

各会の詳細は記載した URL のホームページよりご確認ください。

冊子・ビデオ等の紹介

日本の水郷・水都（2006.3 発行）

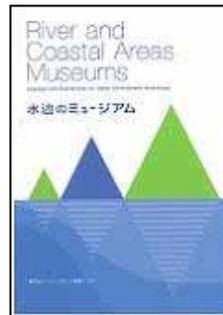
- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



日本各地に今なお残る水郷や水都の風景と、それを維持するための地域の取り組み事例を写真や資料を交え紹介しています。本書を通じ、身のまわりの水辺にも思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

水辺のミュージアム（2007.9 発行）

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介していますので、川の本質を知る上で参考になります。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

JRRN の登録資格

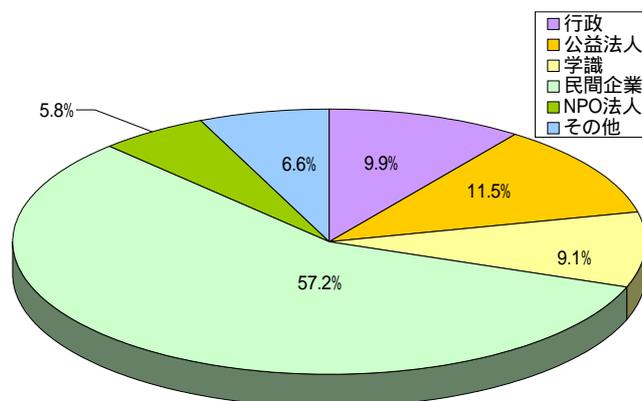
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008年1月28日時点の会員構成

JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部

東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>